

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2373100367
法人名	有限会社 野のユリ
事業所名	グループホーム 野のユリ
訪問調査日	平成21年4月15日
評価確定日	平成21年4月27日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2373100367		
法人名	有限会社 野のユリ		
事業所名	グループホーム 野のユリ		
所在地	安城市二本木新町三丁目2番地5 (電 話) 0566-74-1449		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年4月15日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(平成21年3月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年6月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~48,000 円	その他の経費(月額)	16,000~19,000 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 950 円		

(4) 利用者の概要(平成21年3月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84.5 歳	最低 78 歳	最高 94 歳
協力医療機関名	安城更生病院、あいち内科・胃腸科医院、黒田歯科医院		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街にあり、和風2階建ての一軒家で、一般家庭屋を利用している。明るいい日差しが入るリビングには、ソファやテーブル、テレビが配置され、入居者がテレビを見ながら寛いでいた。ウッドデッキが施された中庭では、大きな犬と3匹の猫が飼育されており、動物好きの入居者の癒しとなっている。昨年の10月から、ホーム隣家を「野のユリ」として開設しており、ウッドデッキで繋げており、レクリエーションを合同で行うなど、入居者、職員の交流が図られている。職員は、入居者の残存能力を大切にすることを心がけ、理念である、「本人の人格を支える」をケアの目標にケアに努め、家庭的なホームづくりに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善課題である、理念、同業者との交流、介護計画の作成と見直し、災害対策などについて、全職員で検討し、重要な課題をできるところから、積極的に改善に取り組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価をサービスの質の確保に活かすため、全職員で取り組み、自己評価を行うことにより、日々の活動を見直す機会になった。家族の忌憚のない意見から視点、考え方が分かり、運営に反映させている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2カ月に1回運営推進会議を開催し、メンバーは入居者代表、家族代表、市介護保険課、地区民生委員、施設長、事務長、職員で構成されている。議題は災害対策、活動状況、行事予定、外部評価の報告の他、ターミナルケアについて家族から質問があり説明している。メンバーからのアドバイス、意見等を運営に反映させている。ホームと同経営である「野のユリ」の開設のため、市担当者との連絡を密にし、指導、助言を受けた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームから家族に定期的な報告はしていないが、家族の来訪時には、必ず施設長、事務長、計画作成担当者が対応し、入居者の暮らしぶりや、様子を伝え、来られない家族には、電話で報告している。家族同士の交流や家族全体の意見をまとめるような家族会は設けていないが、ホームとして家族が意見、要望等を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の情報は町内会の回覧から得て、職員が防犯パトロールや町内清掃に参加し、町内運動会には入居者も参加した。散歩や買い物の時に、地域の人と挨拶や言葉を交わす入居者もいる。ボランティアによる陶芸教室があり、入居者、職員が作品を作り、市の福祉祭りに出品し、家族や地域の人達に見てもらっている。今後ホームの行事に地域住民の参加を呼びかけると共に、ホームが持つてゐる力の還元への取り組みが期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念と地域住民への浸透の取り組みについて、施設長、事務長、計画作成担当者等で検討した結果、事業の目的及び運営の方針に「地域の福祉の向上」という言葉があげられているため、新たに理念をつくるのではなく、現行の「失われゆく能力を補って、本来の人格を支えます、本人、家族にもゆとりある生活を」を理念とすることにした。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念について十分に理解しており、日々のケアの中でも意識しながら取り組み、活動の目標でありケアの基本になっている。施設長、計画作成担当者等は、ケアの場でその都度、職員と話し合い、指導することで、理念の周知と情報の共有に取り組んでいる。また、理念が外部評価課題の一つとして指摘されていることを職員は認識し話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の情報は町内会の回覧から得て、職員が防犯パトロールや町内清掃に参加し、町内の運動会には入居者も一緒に参加している。また、散歩や買い物時に、近所の人達と挨拶や言葉を交わす入居者もいる。ボランティアによる陶芸教室が月1回あり、市の福祉祭りに出品し、家族や地域の人達に見てもらっている。市外の方の見学、訪問があり相談を受け、アドバイスや提案を行っているが、近隣住民の見学や訪問は少ない。	○	地域の行事には積極的に参加し、運営推進会議メンバーとして民生委員の協力を得ていることから、地域の人達のホーム行事への参加や、ホームが持っている介護知識、情報を還元する取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をサービスの質の確保に活かすため、積極的に取り組んでいる。自己評価はミーティング時に全職員で取り組み、意見を出し合い、施設長、計画作成担当者がまとめている。自己評価を行うことによって、日々の活動の見直しと確認ができ課題を掘り起こし、取り組むべき内容が明らかになったと感じている。また、外部評価のアンケートによって、家族の忌憚りの無い意見から家族としての視点、考え方などが把握でき、改善への取り組みホームの運営に反映させている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催している。メンバーは市介護福祉課、地区民生委員、入居者代表、家族代表、施設長、事務長、計画作成担当者、職員で構成されている。地区代表として、自治会長に参加を依頼している。会議内容は、災害対策、活動状況、行事予定、外部評価の報告など他、家族からの質問で、ターミナルケアについての説明を行う等、メンバーからのアドバイス、助言などを頂き運営に反映させている。	○	運営推進会議の議題、結果などの内容を参加者以外、家族、職員などに報告や伝達をし、共有する取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市の介護相談委員の訪問を受けており、親しく相談できる関係を構築している。昨年は、「野のユリ」の開設の為、市担当者との連絡を密に取り、細部にわたり相談し、指導、助言を受けている。市及び学校からの職場体験の要請を受け、3つの中学校から2名～4名を4回にわたり受け入れている。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームから定期的な報告はしていないが、利用料の支払いは原則、持参としており、その際、施設長、事務長、計画作成担当者などが、必ず、入居者のホームでの暮らしぶりや様子を伝えていく。また、介護計画について説明し、現状の確認と承認の印を受けている。来られない家族には、電話で報告し必要な時には、来訪をお願いしている。金銭管理は行っており、個別の買い物は立替払いとし、領収書など揃え利用料と共に請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、施設長、事務長、計画作成担当者、職員のいずれかが対応し、職員が話を聞いた場合は、必ず施設長など上司に伝え、情報の共有に努めている。施設長は家族が話しやすい雰囲気づくりに心がけ、個別の相談、要望などその都度対応し、内容によってホームの運営に反映させている。昨年のクリスマス会に家族の参加を呼びかけ、多くの参加があり家族間の交流の場となった。	○	昨年のクリスマス会では多くの家族の参加があり、交流の場となり家族同士が話す機会となったことから、さらにホームの行事に家族の参加を促し、家族同士の意見交換ができる機会を増やす配慮に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来、職員の退職は1名のみで、入居者のダメージが少ないホームである。日々のケアは必要に応じて複数の職員で行い、職員の休暇、勤務時間の変更等の要望には、柔軟に対応することで、退職を防いでいる。新人職員には、ホームであっても家庭の延長であることを認識させ、ケアのポイントを伝え、夜勤は研修期間を設け、先輩職員がついている。また、職員の退職を入居者には馴染みの職員から伝え、家族には来訪時に知らせている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修計画は作成していないが、外部研修の情報は事務長から職員に伝えられ、昨年は2名の職員が、県の認知症介護実践者研修と市の権利擁護、虐待防止関連法の研修に参加している。研修資料は閲覧でき申し送り等で報告したり、ケアの場でその都度、話し合うことで、情報を共有している。なお、研修参加は出勤扱いである。	○	外部研修の参加の機会を増やすと共に、内部研修の充実に配慮し、働きながら学ぶことで、さらなる、ケアサービスのレベルアップの取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の介護保険事業者連絡調整会議のグループホーム部会に参加し、施設長等の他、職員も出席している。内容は介護保険法の改定や、各事業者から出された議題から、市担当者が司会者となつてのフリートーキングの質疑、応答で、施設見学会や相互訪問について、意見交換が行われた。また、地域居宅支援センターからのホーム見学を受けたり、居室の空き状況の話し合いをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居制度があり、ホームに馴染めるよう入居前に必ず2~3回の訪問をお願いし、見学訪問ができない方には、居宅あるいは入院、入所先を訪問してアセスメントを行い、本人、家族の思い、要望、現状等の情報を把握している。ホームとしてどんな役割ができ、本人にとってどんなケアが最適か見極めるよう努めている。入居の日が初顔あわせにならないよう配慮しており、今後は、短期の通所について機会があれば対応したいと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩としての入居者から、一般的な礼儀や常識を教えてもらったり、職員の様子を見て体調を気使って「大丈夫」と声をかけられる等、良好な関係が築かれている。また、入居者が職員に何でも話せる、仲間としてあるいは家族のように接することができるよう、職員は日々のケア中で、入居者一人ひとりの状況を見ながら、共に支えあえる関係づくりに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで、本人、家族及び関係者から本人の状況、生活歴、得意なこと、興味のあることその他、本人がどう暮らしたいか、希望、意向を把握し、これに沿ったケアに取り組んでいる。入居者の中には意思表示の難しい人もおり、職員は日々の生活の中で、行動や表情から思いや意向を汲み取るよう努め、業務日誌に記載し、申し送りによって、全職員で情報を共有している。情報は職員が見やすいよう、個別フェイスシートにまとめられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	業務日誌には、入居者ごとの血圧、体温、食事、入浴、入退院、ミーティング、ヒヤリハットなどが記録されている。ミーティング欄の入居者の変化などの記録を、職員がケース記録（月ごとに色分け）に転記して介護計画作成担当者がケース記録のポイントを押えて記した付箋を貼ると介護計画になってくる。来訪された家族から聞いた要望も参考にしてプランを作り、介護計画書は家族にも見てもらう。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	業務日誌からケース記録に転記し、ポイントを押えた付箋をつける流れで、介護計画が見直しやすくなっている。入居者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて、3カ月ごとに見直すのが、急変時にはすぐ見直すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験利用は可能な限り受け入れている。入居者の退院時には職員も病院職員から家族と共に説明を受けている。寝たきりに近くなった方もリクライニングチェアで引き続き過ごしやすいようにしている。家族の状況に応じて、墓参りや受診など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診では家族から医師の説明や薬の注意などの情報を得ている。職員が同行した場合も家族に医師の指示や薬の説明などを報告している。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは医療連携体制を取れる医療機関がないため、入居者が重度化した場合の対応に係わる指針は無い。その都度、家族と話し合い救急車と提携医の協力を得て対応している。入院時には入院に至る経緯、サマリー、ホーム入居時のアセスメント記録や介護計画などを病院に伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	雇用通知書の守秘義務厳守を規定して、職員は押印している。個々の記録は入居者が立ち入りしにくい事務所で保管し、職員以外の目に触れることは無い。プライバシー保護に配慮して、ボランティアの受け入れを慎重に行い、守秘義務について必ず事前にボランティアに説明している。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人らしく過ごしてもらいたいという思いから、スケジュール表は作っていないが、職員は、今日一日をどう過ごしたいかを聞いて、希望に沿えるよう、買い物や犬と散歩に出かけたり、時には外食、喫茶店へ行くなど支援している。レクリエーションとして職員と懐かしい歌を合唱するなど本人のペースや意向を大切に、本人本位の生活に配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あさり、しじみ、筍、山菜などの季節の食材を提供して季節感を感じてもらえる工夫をしている。誕生日にはケーキが必ず用意される。職員がテレビや雑誌から入居者に話題を振って、入居者が献立を決めることも多い。食事準備は利用者も食材切りや皮むき等をし、食事中は音楽が流れ、完食する人が多い。食後は一人ずつ自分の食器を洗う。献立作りから調理、片付けに至る流れを、本人の意志や気持ちを大切に進めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に血圧測定し体調を調べている。冬季は乾燥しすぎないようにオイルヒーターで暖房している。入浴を嫌がる人に無理強いはいないが、清拭や血行改善のために足浴などする時もある。医師の指導で38（夏）～40（冬）の湯温にし、週1回体を洗う。高齢者の長時間の入浴はひかえており、入浴前後の水分補給は気をつけている。平均週3回だが5回入浴する方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、体で覚えこんだ記憶（昔とった杵柄）を活かして頂けるように支援している。買い物・鉢植えの水やり、家事、雑巾縫い、陶芸など、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらおう場面を作り、感謝の言葉を伝えている。歌集を皆に一冊ずつ用意して、回想法も取り入れながら、童謡、小学唱歌、軍歌、民謡、演歌などを歌っている。午後は隣の「野のヨリ」との合同レクが盛り上がる。合同でしたクリスマス会は、家族参加で牧師と讃美歌を歌い、話を聞き、家族紹介後に食事会を楽しんだ。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日散歩し、買い物にも出かける。梅、桜、藤、菖蒲等季節ごとの花見も、手作り弁当持参で出かける。入居者希望での喫茶店等への外出も気晴らしや楽しみになっている。小学校での町内運動会には車イス、シルバーカーで出かけ、大きな麦わら帽子をかぶって観覧した。職員が墓参りや馴染みの美容院にも同行し、気分転換、ストレス発散、五感刺激の機会としての外出を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	空き巣の被害が近所であり、防犯の為の施錠を地域の回覧板等で呼びかけられているため、家族の了解のもとに施錠しているが、中からも外からも開けられる。番犬の大きな犬が中庭にいて網戸を開けてホーム内に入ってくるので、衛生上中庭に面したガラス戸を閉めてある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	夜間火災想定避難訓練をした。入居者役に職員がなり、敷き布団ごとベッドから下ろし、廊下、階段から降ろしてみた。1日20ℓで3日分の水と、米、野菜、缶詰、乾パン、携帯用ボンベなどが用意してある。地震時避難場所の梨の里小学校、避難経路も家族に通知してある。避難方法としてのリヤカーや乳母車も検討に上がっている。消防署との合同消火訓練やAEDと救急救命訓練は秋の予定で、AED設置も予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー表示本を参考にして、1日33～34品目、1,500kcal摂取を目安にしている。水分は2ℓを目標とし、夏場はスイカや葡萄などの果物を多く取り、食事時の他に4回水分を取っている。入浴前後にも水分補給している。	○	協力医や保健所などに、一度献立記録を見てもらい、栄養摂取について意見や指導を仰ぐことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣の「野のユリ」とは屋根付きウッドデッキで繋がっている。階段は非常時用で、普段はエレベーターを使用している。リビングには入居者手作りの立派な木目込み人形や、孫の写真などが飾っており、アットホームな雰囲気である。居室とリビングの間は犬や猫のいる中庭で、どの部屋も十分自然光が取り入れられている。朝皆で雑巾がけをしたリビングは、心地よい音楽が流れ、ほどよい風の流れも感じられる、寛げる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員がベッドの下など掃除機をかけ、入居者が自分の部屋を片付け掃除する。タンス、ベッド、カーテン、ポータブルは備え付けである。腰窓には入居者が外に出てしまわないよう工夫して、下部半分位にレースのカーテンが付けられている。衣類の入れ替えは入居者や家族にお願いしている。ベッド使用が危なく、畳を敷き床で寝ている方もいる。写真や絵など飾られ居心地良く過ごせる居室になっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。